

研 修 報 告

報告日 令和4年1月26日

会 派 名	民友
報告者氏名	相澤宗一、佐藤和典
種 別	<input type="checkbox"/> 調査研究（ <input type="checkbox"/> 行政視察） <input checked="" type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 各種会議
用 務	政策づくりと議会図書室
日 時	令和4年1月18日（火）13:00~16:00
場所・会場	庁舎内 民友会派室（オンライン）
概 要	<p>【基調提起】政策づくりと議会図書室 講師 ██████████（早稲田大学マニフェスト研究所顧問）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書室を戦略物資の中心に、そして情報の発信基地へ。 ・議員個々の努力だけでなく、チーム・組織的に在り方を考える。議会事務局も巻き込む。 <p>【問題提起】なぜ議会図書室の改革が必要なのか 講師 ██████████（公益財団法人図書館振興財団事務局長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノーベル賞受賞者の言葉「政策決定者と研究者がどのようにコミュニケーションをとるのかももっと考えるべき」 ・日本、アメリカ、イギリスそれぞれの政府に提言する学術機関は、人数、形態、年間予算、財源からして桁が違う。 ・知は国家の礎、結合し進化を続け、その中心にあるのは図書館機能である。 <p>【講演】 講師 廣木 響平（図書館総合研究所代表取締役社長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の在り方はどんどん変わる（2000年代からは多機能型と特化型）。 ・多機能型図書館でまちがにぎわう。 ・特化型図書館が市民の新たな知への発見をもたらす。 <p>【主な質疑・意見】 Q:議会は何をすることか。 A:監視機能だけではない。議決権者としていかに情報をとり政策立案するかである。 ・ICTは紙からの置き換わりではなく選択肢の一つ。ICT全てに変わることはない。</p>
所 感 等	<p>【相澤宗一】 議会図書室の在り方については、本市議会としても検討を進めてきたところである。物置からの脱却は果たせたが、議員の役割である「政策づくり」のための図書室の活用はこれからの課題として捉えており、現在「政策立案・質問づくりに資する議会図書室」に向け検討が進められている。「議会を一つのチームとして図書室の在り方を考える」との指摘をこれからの議論において生かしてまいりたい。</p> <p>【佐藤和典】 各種講演の後、実際にカメラが横浜市議会図書室に入り、室内の紹介・説明がされた。現在私が委員長を務める議会運営委員会の研究テーマの一つとして、図書室改革が行われているが、参考にしたい点として、①議会事務局からの議員向け情報提供が秀逸、②集中できるハイカウンターの閲覧ブース、③委員会別の配架棚となっている、④新刊コーナーも手に取りやすい、が挙げられる。導入に向け、議論を進めていきたい。</p>